

麻生区区民会議 第14回地域交流・文化部会 議事要旨

- 1 開催日時 平成24年3月1日（木）午後9時30分～11時47分
- 2 開催場所 麻生区役所第4会議室
- 3 出席者 [地域交流・文化部会委員]
石井委員、植木委員、魚本委員、菅原委員、竹市委員、武濤委員、
田中委員、土井委員、柳島委員
[事務局]
安生企画課長、阿部企画課担当係長、川里
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事
 - (1) 調査審議課題について
 - ア 「第2回区民会議フォーラム」について
【報告事項】
 - ・第2回区民会議フォーラムの当日の進行、区民会議報告用の資料内容、パネルディスカッションの構成、展示物の集まり状況などについて、事務局から説明し確認した。**【主な意見等】**
 - ・「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」の部分の報告資料について、報告を聞く参加者側にとっては、『区民が主体となって進める内容』と受け止めるのではないかと。もう少し、区民主体について触れたほうがよいと思う。
 - 芸術・文化については、多くの区民が関連行事に参加している現状がすでにあるとともに、さらにより多くの区民が楽しむことができ、主体となって進めることができるようになるための体制づくりの提案として考えている。具体的な口頭説明の中で、その部分に触れたらよいだろう。
 - 行政が立てた計画に従うスタンスで進めるのではなく、いろいろな人がそれぞれの思いを持ちながらどう作り上げていくかを考え、そのさまざまな発想をもとにまちづくりを進めていきたいし、そうすべきと考えている。
 - 一般の区民にとって、ある特定の人だけが芸術・文化に携わっているのではないかと、というイメージ・誤解があるように思う。補足説明すればよい。
 - ・報告資料の9ページ、『2 ボランティア団体、麻生区社会福祉協議会 【主な取組事例】①』の部分について、意味がよくわかりにくい。
 - 例えば、『…PRの実施などで利用者の拡大を図っている』と表現を変えてみてはどうか。

イ 「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」について

(広報～ガイドブックの作成について)

【主な意見等】

- ・ 前回の部会の中では、ガイドブック（保存版）のイメージ案として提出された資料内容が「高齢者」に限られていたことに対して、「障害者」や「子育て」についても言及できるように検討しよう、ということだった。しかし、「障害者」や「子育て」部分をこれから情報収集し、イメージ案を作成することができるだろうか。イメージ案を急いで作るのか、それとも案は「高齢者」部分のみとし、最終報告の中に『障害者や子育ての課題についても、同様のものを作る必要がある』という一文を加えて補足するに留めるか、検討しなくてはならない。
- ・ 「高齢者」と「障害者」についてガイドブック（保存版）を作るとしたら、情報を必要とされる対象も異なるので、別冊とした方がよいのではないかと。
 - 高齢者の中でも意欲的な人は、溢れる情報の中から自分に必要な情報を取捨選択できるが、そうでない人、障害者も含め自分でできない人のことを考えると、課題ごとに分冊するのではなく、すべての問題を1ヶ所で受け付けて連携して取り組んでくれる最初の窓口（入口）のようなもの、が理想ではないだろうか。
- ・ ガイドブック（保存版）を全戸配布して、果たして効果が継続するのだろうか。
- ・ 「障害者」の課題については様々な分野に細分化され、そこに関わる人・団体や法律・制度なども多岐に渡る。同程度のイメージ案を作ることはできなくもないが、対象者にはまずは窓口に行ってもらい、そこから細分化された具体的な部署や機関へと回す（紹介する）ことの方が現実的である。但し、行政でも区社協でも人が少なすぎて、現状そこまで機能していない、とも言える。
 - ガイドブック内に、個々の団体の活動など細かな情報まで載せるのは難しいと思う。
 - 障害者をサポートする団体・機関はいろいろとあるので、ある程度最初の相談窓口は絞って案内しなければならないと思う。
 - いろいろな団体については時の経過とともに変化するし、そのすべてをガイドブックに敢えて掲載する必要はないだろう。振り分けができる相談窓口で、その担当者がきちんと把握しておけば、問題ないことである。
- ・ 限られた時間の中で、これからこと細かに「障害者」の利用しやすいガイドの内容をまとめていくのは難しいだろう。
- ・ 高齢者、障害者、子育て…など全体としての相談窓口があるとよいと思う。例えば『生活110番（ほか、麻生区110番、福祉110番、高齢者・障害者などの生活なんでも相談…）』というような名前を付けて、生活上の困った事は何でも相談できる場所を1ヶ所創設し、そこにはいろいろな人材とのネットワークがすでに整備されており、電話相談をすると個別のケースごとに振り分けて、対応できる担当の部署・機関に繋いでくれるようなものが、利用者にとっても簡便で理想的と言えるだろう。
 - ガイドブック（保存版）ももちろんあった方がよいが、例えば、障害者の最初の相談窓口は、「区社協のココの部署」というように指定すれば、利用者もわかりやすい。

- その場合、まずは行政が最初の窓口になると思う。
- すでに行政がやってくれている部分もあるが、このような一項目を我々の提案の1つとして加えたらどうだろうか。
- ガイドブック（保存版）の発行よりも、「困ったときはまずはここに電話相談しよう」という窓口があった方がより有意義だと思う。
- 高齢者も障害者も、助けが必要な事案が発生したら必ず自分でどこかに相談するだろう。
- 障害者にとってガイドブック（保存版）中に1つ大きな窓口が記載されるだけでも救われるだろう。
- ・今、市（区）において総合相談窓口のようなものはないのだろうか。
 - サンキューコールは、ほとんどが行政に対する要望や苦情の受け付けで、個々の細かな生活相談はできない。
 - 本当は、区保健福祉センターでそのような部署を設けて担うべきだと思う。
 - 行政でうまくできないのは、行政の縦割りの問題と人事異動などによる業務停滞等の弊害があるからではないか。
 - あくまで報告書に盛り込んでいく際は、具体的な「行政において1つにまとめた窓口」を求めるのではなく、「1つ総合情動的な相談窓口が必要である」というレベルでの書き方でよいと思う。
 - 提言の中に盛り込むことで、次（将来）へとつなげたい。
- ・区民会議からの提言は、今あるものの徹底などよりも全く真新しいものの方がよいと思う。総合相談窓口は行政なのか、会議を持つのか、ボランティア団体等の情報はどうするのか、といった方向性を整理し、新しい課題解決の提案として書き換えるかどうか。
 - 今あるものをもう少し充実する、というのも大事なことである。今利用されていないものをどうやったら利用してもらえるようになるか、それを促すのも大きな事である。
- ・過去に行政で同様の冊子を全戸配布し、その利用度などを調査したことがあるか。
- ・ある程度の厚い型紙の方がよいだろう。配布先は発行部数はどうしたらよいか。
 - ある程度内容を精査しないと、具体的な形式などは決められない。
 - 今の審議検討段階で、あまり体裁まで細かく踏み込まないほうがよいだろう。

【確認事項】

- ・課題解決の具体的な取り組みの1つとして新たに、電話で相談できる総合窓口のようなものについて、最終報告書の文中と、「高齢者」「障害者」などのためのガイドブック（保存版）のイメージ（案）の中にそれぞれ盛り込む。
 - 但し、このような全体的な体制づくりを訴える前提（下地、基盤）として、「人と人との絆」や「ボランティア（担い手）の意識」などが大切であり、このことは我々区民会議ですずっと審議してきたことの一番のポイントでもある。
- ・障害者の情報を盛り込んだガイドブック（保存版）のイメージ（案）については、これから魚本委員と菅原委員が素案を作り、次の部会（または検討会）で内容確認と審議を行う。

(報告まとめに向けて)

【主な意見等】

- ・ 前回部会で提出された資料や今までの各委員からの発言内容から、「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」の最終報告をまとめていきたい。
- ・ ささえあいの活動を進めるに当たっては、まずは区民にとって何でも相談できる窓口の整備などの体制づくりがあって、その上で各町会・自治会や団体、地域での組織としての具体的な運用展開につながっていくことになるだろう。
- ・ 今までの議論を含めて、事務局に報告の素案をまとめてもらい、次回部会（検討会）で最終の意見交換と詰めを行いたい。

ウ 「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」について

【確認事項】

- ・ 提案としてまとめた最終案を確認した。

エ その他

【報告事項】

- ・ しんゆり・芸術のまちづくりによる地域活性化に向けて、新百合ヶ丘地域活性化シンポジウムの紹介と合わせて、NPO法人の動きを石井委員から報告された。
- ・ あさお市民交流館やまゆりで実施した「目指せ！アクティブシニア達のセミナー」の活動報告とアンケート結果について、地域の人材発掘・育成の話と絡めて植木委員から報告された。

(2) その他

【報告事項】

- ・ 平成23年度第2回かわさき市民アンケートにおいて、区民会議の認知度が市内で麻生区が一番高かったこと、今回第3期で取り上げているテーマが市民の関心度の高い地域課題テーマと一致していること、などを事務局から報告した。
- ・ 区制30周年記念の花と木が、「ヤマユリ」と「禅寺丸柿」に決まったことを事務局から報告した。

【確認事項】

- ・ 区民会議の報告書については、事務局で素案を作成した上で3月中旬に各部会で内容を揉んで詰めの作業に入る。
- ・ 次回の地域交流・文化部会は、報告書作成に向けた検討会（勉強会）として、3月19日（月）17時30分から開催する（場所等の詳細は後日、事務局から連絡する）。